

## ポスト MDGs に向けてのワールド・ビジョンの基本的考え方

### 世界で最も弱い立場にある子どもたちのために

#### 要旨

ミレニアム開発目標（以下 MDGs）後であるポスト MDGs の開発アジェンダは、子どもたちが直面する問題を中心に検討されるべきです。WV（以下 WV）は、以下のような開発目標の策定を進めていきます。

- コンサルテーション・プロセスに子どもと若者が積極的に参加し、子どもたちの声を取り入れた目標が定められる
- 脆弱な国など、あらゆる環境に置かれた最も弱い立場にある子どもたちのニーズを十分反映した目標が定められる

#### ミレニアム開発目標の教訓

2000 年に採択されたミレニアム開発目標（以下 MDGs）は、国際社会の注目を世界の貧困に集め、問題解決のための協調した行動を促すことに成功しました。分かりやすい指標、またその指標毎の測定可能な目標が定められたことも、その成功を支えた要因であると考えられています。WV では「Child Health Now アクション！ 教えるはずの命のために」キャンペーンを通じて、MDGs の 4 および 5（乳幼児と妊産婦死亡率の削減）に取り組んできました。

MDGs の達成期限である 2015 年が 3 年後に迫る中、8 つすべての目標の達成は難しい状況です。このままでは、世界で最も弱い立場にある子どもたちが取り残されてしまいます。MDGs のそもそもの目的は、世界における貧困を半分に減らすことでした。したがって十分な成果が上がった場合でも、すべての問題が解決するというわけではないのです。WV は最も弱い立場にいる子どもたちに届くように、MDGs の問題点を明確にしてポスト MDGs に生かしていくべきであると考えます。

MDGs には、多くの問題点が指摘されています<sup>i</sup>。貧困を一面的に捉え、異なる状況に対して一つのアプローチのみを推進している点や、社会セクターが重視されている一方で、平和や安全保障、人権、民主主義とグッド・ガバナンス（良い統治）、最も弱い立場にある人々の保護など、国連ミレニアム宣言の基本目標が含まれていない点など、様々な短所を抱えているのです。

ポスト MDGs では、世界で最も弱い立場にある子どもたちに成果をもたらす開発目標が定められるべきです。特に、以下の点を考慮すべきです。

- 最も弱い立場にある取り残された人々に成果が直接もたらされるよう、衡平性を重視する
- 貧困層の大部分が低開発国ではなく、中所得国に居住している点を考慮する
- ドナー国主導ではなく、途上国や中所得国の政府や市民の参加を促し、協調的かつ包括的なプロセスを重視する
- 政治的に不安定な脆弱国において、開発の契機を創出する

## WV のポスト MDGs の開発アジェンダにおける優先順位

### 1. 最も弱い立場にある子どもたちに衡平な効果がもたらされること

完全に公正で衡平な世界的枠組の策定は困難です。それでも尚、WV は、最も弱い立場に置かれた子どもたちの生活が改善されるよう、努めていきます。WV は、衡平性を重視した新たな開発目標の策定を目指す世界的な動きを支持し、これまでの経験と実績から、理想を実現する建設的な方法を提案していきます。

不衡平への取り組みは、MDGs が十分対処できなかった分野です。各国の差異を考慮しなかったばかりか、最も弱い立場にある人々へ多くの場合、最も手が届きにくい人々へ手を差し伸べる上での動機づけを政府に提示しませんでした。世界各国で拡大している不平等は、開発と経済成長により何百万人もの貧困層の生活が改善された一方で、最も貧しい人々がその恩恵を受けていないことを示唆しています。同じ環境の中でも、同じ結果になるとは限りません。近年の研究では、不衡平が貧困層のみならず、富裕層にも負の影響を及ぼすことが明らかとなっています<sup>ii</sup>。

途上国の経済が成長する中で、社会の最貧層を対象とした援助は、不平等のギャップを埋める可能性を秘めています。開発に利用できる資源は限られていますが、最も弱い立場にある人々のために活動する WV では、衡平性を重視し、経済成長の恩恵を受けていない場所と人々に資源を導いていきます。

### 2. コンサルテーション・プロセスへの子どもと若者の参加

WV では、人々が自ら影響を受ける決定に意見を述べることは、子どもを含め、すべての人々の権利であると理解しています。したがって新たな開発目標が定められる場には、子ども、家族、そしてコミュニティのための席が設けられるべきです。

目標を定める過程では、新たな開発目標に基づくイニシアティブの実施に人々が参加できるよう、計画すべきです。また成果の一つとして、参加に関する指標を定めるべきです。

政府レベルで行われる国連主導のコンサルテーションにおいても、子どもと若者の直接参加が重要となります。WV では、各国に設置している事務所や地域のネットワークと協力し、少なくとも 10 カ国において、子どもと若者の直接参加が実現するよう、関係各所に働きかけていきます。地域や国際社会のレベルにおいても、若者が直接協議に参加できるチャンスが設けられるべきです。またすべてコンサルテーションにおいて、年少の子どもたちの権利を十分考慮すべきです。

### 3. 脆弱性への考慮と状況に対応したターゲットの策定

最も弱い立場にある子どもたちに手を差し伸べるものとなるよう、新たな開発目標は正しく構成される必要があります。現在の MDGs は、全世界に共通したターゲットを定めているという点で評価されるものですが、各ターゲットがそれぞれの国や地方の文脈に沿って解釈されないという欠点があります。この傾向は、改められるべきです。グローバルな目標を目指すだけでなく、各国の最も弱い立場にある人々に援助が効果的に届くよう、国や地域レベルのターゲットを定める必要があります。そのためには、地

域に関する最適な情報を用いることができるよう、政府による積極的な権限の行使と説明責任が求められます。各地域の状況に対応したアプローチこそが、すべての国で有意義な進展を可能にするのです。

世界で最も脆弱な国や紛争の影響を受ける国が貧困削減に取り組む上で、MDGs は不十分なものでした。その特殊な状況に対応できませんでした。ポスト MDGs の開発目標として、このような状況を考慮すれば、国々特有のニーズや状況により良く対応できると考えられます。WV では、脆弱な地域での開発のアプローチに不可欠な分野として、平和構築とガバナンスに取り組んでいますが、これらは MDGs で提起されていない分野です。ポスト MDGs の開発目標では、政府が取り組むべき分野として、ガバナンスを改善し、子どもたちを含むコミュニティの福祉のための対立を解消するような、測定可能な指標を策定すべきです。

### ポスト MDGs に向けた WV の活動

WV では、国際社会の約束が守られるよう、ポスト MDGs の枠組策定に向けて国連主導で実施されるすべてのコンサルテーションに参加していきます。

- 50 カ国以上で予定されている国家レベルのコンサルテーションのうち、少なくとも 10 カ国での協議に参加します。
- 国連が特定した 11 分野のうち、保健、食料安全保障、栄養、紛争と脆弱性の分野において、これまでの経験と専門性を活かします。
- ハイレベル・パネル<sup>iii</sup>やそのメンバーに働きかけます。国連ミレニアムキャンペーンにより、地域および世界的なコンサルテーションに参加します。WV が活動する 100 カ国において、市民の参加を促します。
- Beyond 2015 やベルリン市民社会センターを含む、市民社会のイニシアティブや複数の機関により構成されるグループに参加し、リーダーシップを発揮します。また WV の重点分野に関する協議プロセスに参加するほか、民間企業にも働きかけていきます。

<sup>i</sup>Vandemoortele, Jan (2012) Advancing the global development agenda post-2015: Some thoughts, ideas and practical suggestions. [http://www.un.org/millenniumgoals/pdf/Vandemoortele%20Background%20Paper\\_1.pdf](http://www.un.org/millenniumgoals/pdf/Vandemoortele%20Background%20Paper_1.pdf)

<sup>iii</sup>Wilkinson, Richard and Pickett, Kate (2009) The Spirit Level: Why Greater Equality Makes Societies Stronger. London: Penguin Books.

<sup>iii</sup>国連事務総長が 2012 年 7 月 31 日、ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成期限となっている 2015 年以降のグローバルな開発アジェンダに関し助言を行うハイレベル・パネルのメンバーを発表しました。